

車両の走行速度等に関する既存の意識調査結果について（案）

1 平成 17 年版警察白書（抜粋）（警察庁）（別添 1）

(1) 実施状況

- 実施期間 平成 17 年 2 月
- 対象者等 国民に対し、高齢者がかかわる交通事故の防止に関する次の 3 つの意識調査を実施
 - ・ 交通事故防止に関するアンケート（運転免許受けている満 16 歳以上の男女 3,382 人を対象）
 - ・ 高齢者の交通事故防止に関するアンケート（運転免許を受けている満 65 歳以上の男女 1,092 人を対象）
 - ・ 歩行中・自転車乗車中の高齢者の交通事故防止に関するアンケート（運転免許を受けていない全国の満 65 歳以上の男女 1,104 人を対象）

(2) 調査結果

- 高齢運転者に対する国民のイメージ（図 1-36 参照）

一般的に高齢運転者に対してどのようなイメージを持っているかと質問したところ、全年齢層の平均で、「周囲の状況に注意を払わない」と答えた者が 66.0%、「ブレーキを踏むのが遅れるなど、反応が遅い」と答えた者が 61.2%であった。こうした悪い印象を抱いている者が、「安全意識が高く、交通ルール・マナーをよく守っている」といった良い印象を抱いている者よりはるかに多い。この傾向は、高齢者以外の年齢層の回答者において顕著である。
- 高齢者から見た他の運転者のイメージ（図 1-38 参照）

高齢運転者に対して、他の運転者についてどのようなイメージを持っているかと質問したところ、「スピードを出しすぎている」(50.2%)、「車間距離を詰めすぎている」(40.3%)、「無理な追越しをする」(30.5%)と答えた者が多かった。高齢運転者が、他の運転者は無謀な運転をするという印象を抱いていることがうかがえる。
- 街路における交通事故防止対策（図 1-55 参照）

高齢者に対し、日常生活に身近な住宅街や商店街の街路で歩行中又は自転車乗用中に事故に遭わないようにするための施策について質問したところ、多くの者が最高速度の引下げ、信号機の設置、見やすい道路標識の設置等が必要であると答えている。

このことから、高齢の歩行者・自転車利用者の多くは、日常生活に身近な道路に様々な危険を感じており、これらの危険を解消するため、更なる交通規制の実施や交通安全施設等の整備を求めていることが分かる。

2 高齢運転者の安全運転支援に関するアンケート調査結果（抜粋）（警察庁）（別添 2）

(1) 実施状況

- 実施期間 平成 20 年 8 月 29 日～9 月 22 日までの間
- 実施場所 全都道府県の運転免許試験場や指定自動車教習所等
- 対象者等 次の 2 種類の調査事項を設定し、それぞれ一般ドライバー（70 歳未満・更新時講習受講者等）と高齢ドライバー（70 歳以上・高齢者講習受講者）を合わせて 2,000 人（計 4,000 人）を対象
 - ・ 初心運転者標識、高齢運転者標識等の表示の状況、高齢運転者標識制度についての意見、高齢運転者の安全運転支援のための施策に関する意見等について
 - ・ 自動車の運転中における「あおり」、「幅寄せ」等の行為の経験、自動車の運転中に他の自動車との関係で危ないと感じた経験等について

(2) 調査結果

- 幅寄せ行為をされた経験の有無
 - 「ある」と答えた高齢者（70 歳以上）は 26.3%で、うち「頻繁にある」(3.8%)、「ときどきある」(60.1%)、「ほとんどない」(34.6%) となっている。
 - また、一般運転者（16 歳から 69 歳）では「ある」と答えた者は 31.4%で、うち「頻繁にある」(3.5%)、「ときどきある」(49.7%)、「ほとんどない」(44.9%) となっている。
- 割り込み行為をされた経験の有無
 - 「ある」と答えた高齢者は 60.1%で、うち「頻繁にある」(3.8%)、「ときどきある」(66.9%)、「ほとんどない」(28.3%) となっている。
 - また、一般運転者では「ある」と答えた者は 73.0%で、うち「頻繁にある」(4.9%)、「ときどきある」(63.2%)、「ほとんどない」(31.1%) となっている。
- あおり行為をされた経験の有無
 - 「ある」と答えた高齢者は 49.6%で、うち「頻繁にある」(3.6%)、「ときどきある」(66.5%)、「ほとんどない」(29.0%) となっている。
 - また、一般運転者では「ある」と答えた者は 71.7%で、うち「頻繁にある」(3.8%)、「ときどきある」(61.6%)、「ほとんどない」(33.9%) となっている。
- 運転中に後方から急速に車が迫ってきて怖いと感じた経験の有無
 - 「ある」と答えた高齢者は 48.7%で、うち「頻繁にある」(4.1%)、「ときどきある」(64.9%)、「ほとんどない」(30.4%) となっている。
 - また、一般運転者では「ある」と答えた者は 57.7%で、うち「頻繁にある」(3.1%)、「ときどきある」(61.4%)、「ほとんどない」(35.0%) となっている。

3 平成 18 年度規制速度決定の在り方に関する調査研究報告書（抜粋）（警察庁委託調査研究）（別添 3）

(1) 実施状況

- 実施期間 平成 18 年 7 月～8 月までの間

- 実施場所 全都道府県の運転免許試験場
 - 対象者等 都道府県別の運転免許保有者数を勘案して、運転免許試験場における任意の運転免許証更新者 3,511 人を対象
- (2) 調査結果
- 最高速度の制限について ((1) 参照)

一般道路の幹線道路においては、「適当である」、「制限が厳しいところや緩やかなところもあるが、おおむね適当である」との意見が 71%を占めている。また、同様に、一般道路の生活道路では 75%、高速自動車国道では 73%及び自動車専用道路では 67%を占めている。

さらに、自宅付近の幹線道路の制限速度の引き上げについては、賛成の 3割に対して反対が 4割と、反対がやや上回っている。また、自宅付近の生活道路では、反対が 64%と多くなっている。
 - 制限速度と実勢速度について ((2) 参照)

「制限速度は、多くの車が実際に走っている速度にあわせるべきか。」については、賛成との意見が半分を占めている。また、反対又はどちらともいえないと選んだ方を対象に、制限速度を決める際、どのようなことを重視して決めるべきかという質問を行った結果、道路の構造、遠藤の状況と回答した方が約 7割、交通事故の発生状況と回答した方が約 2割となっている。
 - 法定速度の引き上げについて ((3) 参照)

一般道路については、「今のままでよい」が 77%と最も多い。また、「制限速度を上げる」が 16%であり、同様に、高速自動車国道についてはそれぞれ 67%、25%となっている。反面、自動車専用道路については、「今のままでよい」が最も多いものの 54%に留まり、「制限速度を上げる」が 37%と一般道路、高速自動車国道に比べて多くなっている。
 - 人家密集地域等の制限速度 30km/h について ((4) 参照)

「積極的に適用する地域を広げていくべきである」、「交通の障害にならない範囲で適用地域を広げるべきである」の意見が約 8割を占めている。

平成 17 年警察白書（抜粋）

図 1-36 高齢運転者に対する国民のイメージ(複数回答)

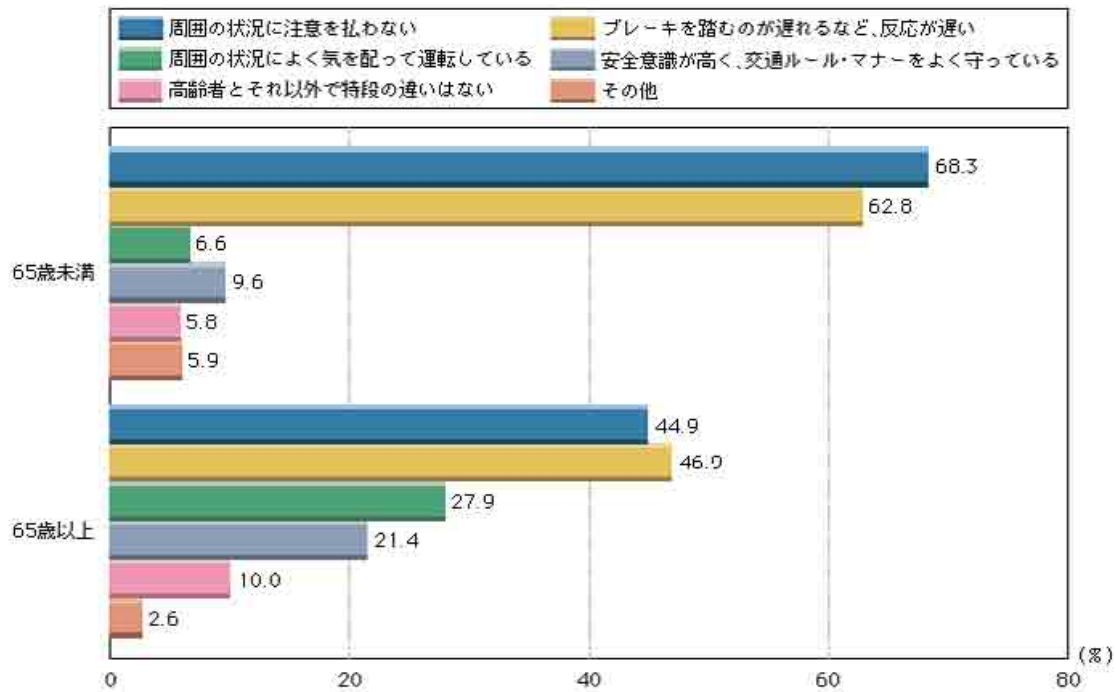


図 1-38 高齢者から見た他の運転者のイメージ(複数回答)

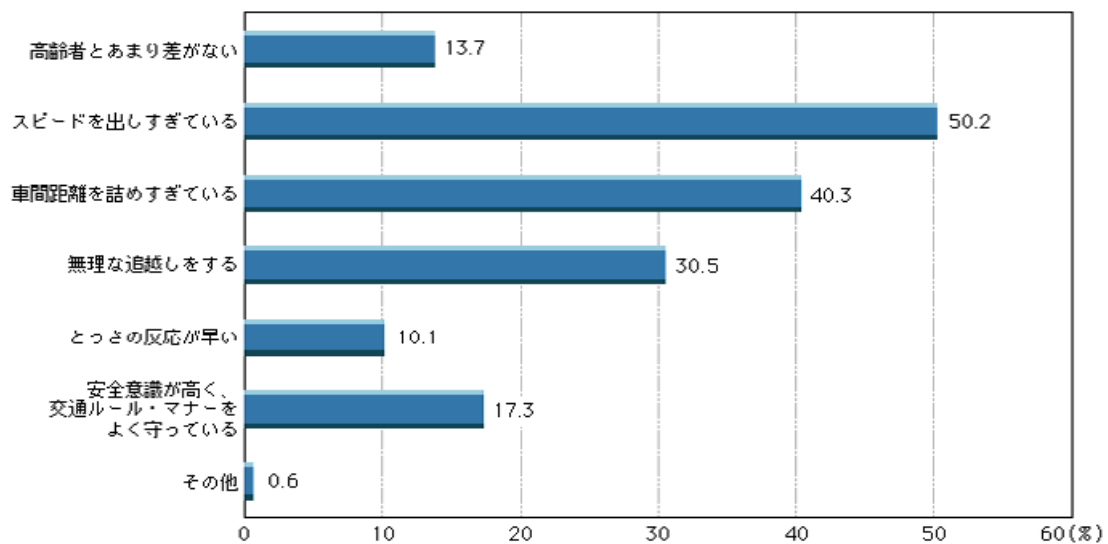
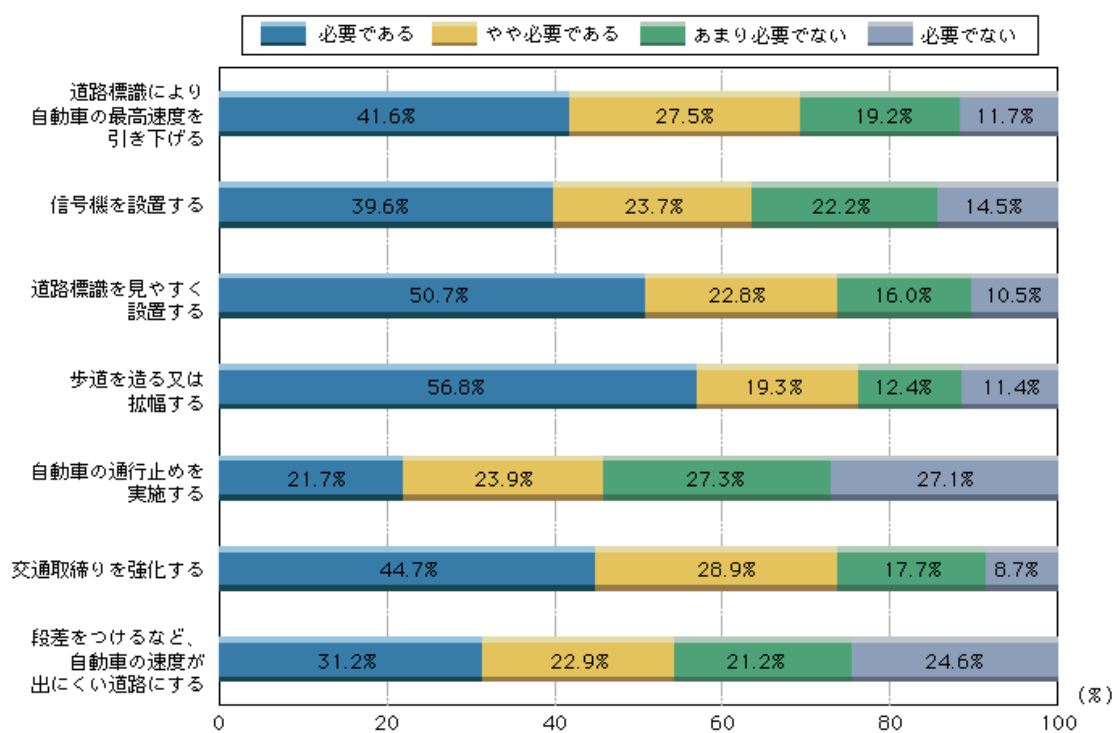


図 1-55 (高齢者から見た) 街路における交通事故防止対策



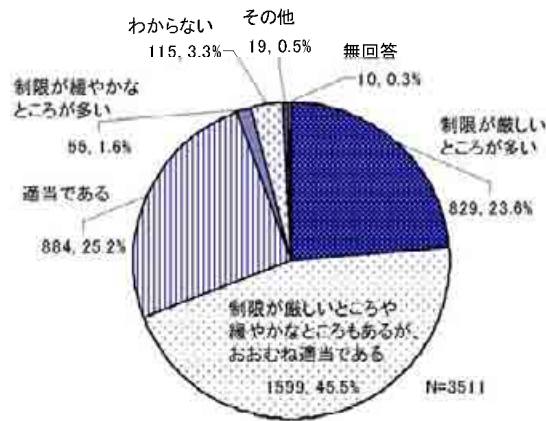
平成 18 年度規制速度決定の在り方に関する調査研究報告書（抜粋）

2. 2 調査結果

(1) 最高速度の制限について

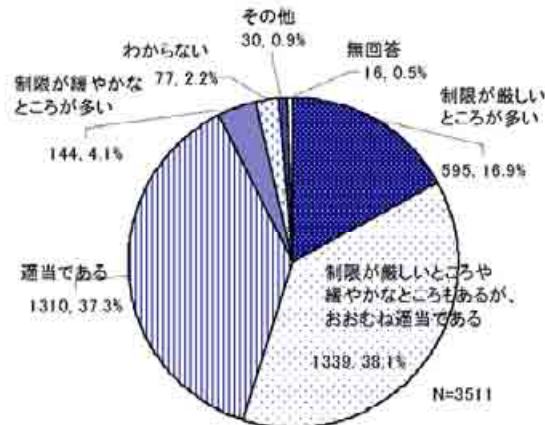
①一般道路の幹線道路

一般道路の幹線道路においては、「適当である」、「制限が厳しいところや緩やかなところもあるが、おおむね適当である」との意見が 71%を占めている。



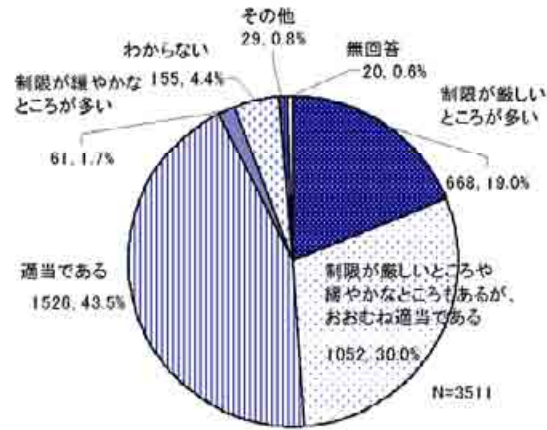
②一般道路の生活道路

一般道路の生活道路においては、「適当である」、「制限が厳しいところや緩やかなところもあるが、おおむね適当である」との意見が 75%を占めている。



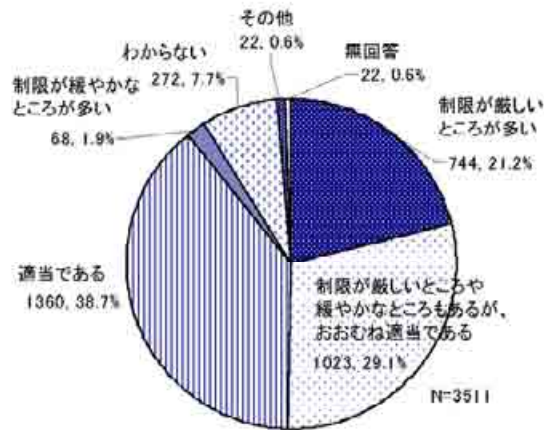
③高速自動車国道

一般道路の高速自動車国道においては、「適当である」、「制限が厳しいところや緩やかなところもあるが、おおむね適当である」との意見が73%を占めている。



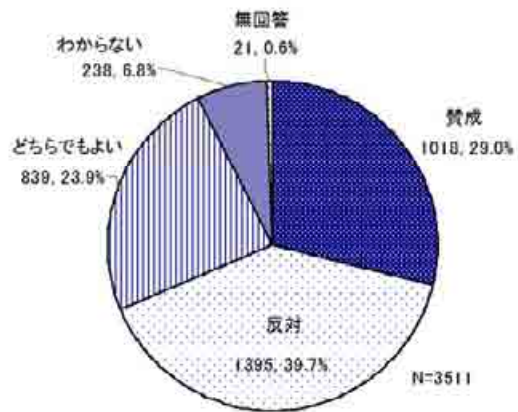
④自動車専用道路

一般道路の自動車専用道路においては、「適当である」、「制限が厳しいところや緩やかなところもあるが、おおむね適当である」との意見が67%を占めている。



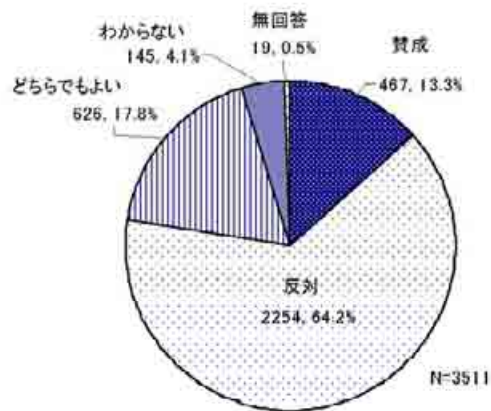
⑤自宅付近の幹線道路の制限速度を引き上げについて

自宅付近の一般道路の幹線道路の制限速度の引き上げは、賛成の3割に対して反対が4割と、反対がやや上回っている。



⑥自宅付近の生活道路の制限速度を引き上げについて

自宅付近の生活道路の制限速度の引き上げは、反対が64%と多くなっている。



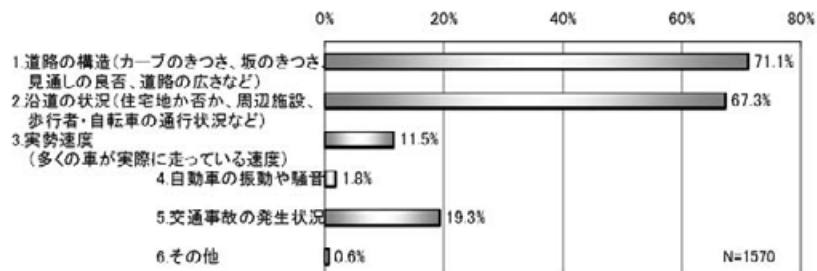
(2) 制限速度と実勢速度について

①「制限速度は、多くの車が実際に走っている速度にあわせるべきか。」については、賛成との意見が半分を占めている。



②反対者の重視する制限速度決定要因（複数回答）

(2)の①で反対又はどちらともいえないと選んだ方を対象に、制限速度を決める際、どのようなことを重視して決めるべきかという質問を行った結果、道路の構造、沿道の状況と回答した方が約7割、交通事故の発生状況と回答した方が約2割となっている。



(3) 法定速度の引き上げについて

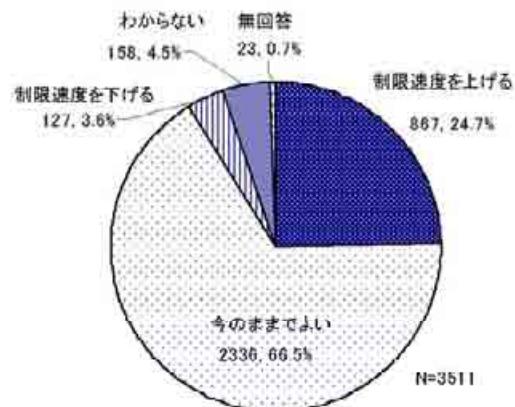
①一般道路

一般道路の法定速度については、「今のままでよい」が77%と最も多い。また、「制限速度を上げる」が16%であり、次に示す高速自動車国道、自動車専用道路に比べて引き上げの割合が少ない。



②高速自動車国道

高速自動車国道の法定速度については、「今のままでよい」が67%と最も多く、次いで「制限速度を上げる」の25%となっている。



③自動車専用道路

自動車専用道路の法定速度については、「今のままでよい」が最も多いものの、51%に留まり、「制限速度を上げる」が37%と一般道路、高速自動車国道に比べて多くなっている。



(4) 人家密集地域等の制限速度 30km/h について

「人家密集地域等の制限速度 30 km/h エリア規制」については、「積極的に適用する地域を広げていくべきである」、「交通の障害にならない範囲で適用地域を広げるべきである」の意見が約8割を占めている。

